



風



詩と真実

戸内順一



星空は

誰の上にも
またたいて
気づく人あり
気づかぬ人あり



透き通った朝がやってくると
僕は地上に降りてくる

生まれたての空気は
いかにも美味しそうだ

赤い火の玉は
僕に光を投げつける

大気は口をつぼめて
僕にそっと風を吹きかける

ああ朝よ
今日一日を生きる力を僕に与えたまえ
今夜、終の棲家に戻るまでの力を



見わたせば
良いも悪いも
なかりけり
人が勝手に
色を染めおり



飛翔する

白鳥に問う

いったい我は

どこから来たのか

どこへ行くのか



悲しいとき
顔はボツと

床に落ち

嬉しいとき顔は

ふわっと宙に舞う



ピラミッド

築きし名もなき
人たちよ
今四千年が
君たちを讃える



友達は

あなただけです
春の月

冬の虹

渡ればきっと

黄泉の国



この風はどうやってここまで来たのだろうか

いろいろな体験をして

この風は僕のところにやってきた

そして、今僕から去ろうとしている

さようなら風よ！

たまには僕のことを思い出しておくれ

やがて風になる僕のことを